

防災世界子ども会議 2005 in ひょうご

国際会議 3月25日～28日のレポート

5月29日(日) - 6月4日(土)

主催：JEARN 防災世界子ども会議 2005 実行委員会

協力：独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター (JICA 兵庫)

開催にあたって

2004年9月、iEARN (アイアーン)「防災世界子ども会議 2005」プロジェクトが、被災地・兵庫からスタートしました。インターネットを活用し、国際交流を通して、世界の子どもたちと、防災について学びあい、語り合い、そして、命の尊さを考える「会議」を目指しました。まずは国内外の54の学校、1000人にも及ぶ子どもたちを中心に交流が始まったのです。そして、ついに3月25日から同28日まで、神戸、淡路島で、プロジェクトの最終章、「防災世界子ども会議 2005 in ひょうご」を開催するに至りました。

世界12カ国から、子どもたち、教師ら120人が、全体では、550人が集い、災害、防災について意見交換し、学び、多くの教訓を得ました。悲しみや絶望を、希望、生きる力に変える知恵を話し合いました。



宣言文：“Try to feel, try to learn, try to share” (2005年3月28日)

神戸の里山でのユニセフパークプロジェクト活動から、JICA 兵庫国際センターでのフォーラム、そして兵庫県立夢舞台国際会議場での宣言発表会にいたるまでの、子どもたちの「活動」を伝えます。

スマトラ沖地震についてのインドネシア・アチェの子どもの報告など、参加国の子どもの発表は、防災についての教訓を示唆し、内外の注目を集めました。そのまとめとして、3月28日、「今日を防災について考える出発点として、学び、感じ、共有しよう」という宣言文が拍手で採択されました。

私たちは、「2005 in ひょうご」を文字通り出発点として、2006年も、生まれたばかりの防災ネットワークを充実、広げて、世界に情報を発信、災害救援にも役立てるようになりたいと思っています。

最後になりましたが、写真展開催に当たり、ご協力いただきました皆様に、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

2005年5月29日